10月～11月どり主要アブラナ科野菜の高温障害軽減技術の開発

【研究概要】

近年の記録的な猛暑で、多くの野菜で発芽不良や定植苗の枯死、収穫物の生育障害などが多発している。そのため、高温障害を抑制し、夏～秋の都産野菜の生産を安定化させることが必要である。そこで、都内で生産が多いアブラナ科野菜３品目（ダイコン、キャベツ、ブロッコリー）の 10～11 月どりの作型を対象とし、障害発生の条件を検討し、高温障害の発生しにくい品種の選定を行うことと、播種期や遮熱資材などについて検討し、簡易な方法で、障害を抑制するための栽培管理技術を開発することを目的に試験を実施した。

（１）９月上旬播種のダイコンは高温障害発生の年次変動が少なく、障害が安定して少ない「夏秋自慢」が有望である。

（２）８月上旬播種、10 月～11 月収穫のキャベツで「チョーハンシャサマー」および「チョーハンシャ」を使用すると、収穫日が早まり高温障害を抑制できる。

（３）８月上旬播種、10 月～11 月収穫のブロッコリーでは、「アーリーキャノン、すばる」が花蕾重を確保でき、生理障害の発生が少なく、有望である。また、同時期に「チョーハンシャサマー」を使用すると、品種を選ぶことで高温障害を抑制できる。